

## 平成18・19年度 学習支援室活動

齋藤 昭二・高橋 優

平成19年9月、筆者(齋藤)は学習支援室発行の広報誌「学習支援室ニューズレター」(第3号)に「進化する学習支援室」と題する一文を寄せた(齋藤, 2007)。時代は目まぐるしく変化しており, 企画段階で有効と思われた内容が実施の段階ではもはや機能しないということさえ社会では見られるようになってきている。学習支援室とて例外ではない。発足から4年が経ち, その内容が現在の利用者のニーズに込えているかを絶えず定期的に検証する必要がある。寄稿文「進化する学習支援室」での主張の論拠はその前年に行った, 学習支援室の利用に関する在学生向けアンケートであり, そこでは利用者の言わば「生の声」に耳を傾け, その後実際にいくつかの改善を試みた(後述)。

本論では, そうした声に加え, それ以外の数値化されたデータという「声なき声」を含めて, 過去2年間の学習支援室の現状を検証し, 学習支援室の今後を考える一助としたい。

### 1 平成18・19年度の学習支援室の利用状況

#### 1-1. 来室者数の推移

学習支援室来室者は設置2年目の平成17年度に575人を記録したが, その後は大幅に減少した。平成18年度は前年度より250人少ない325人, 平成19年度は327人だった。開設から4年間の来室者数の推移を表1に示す。平成19年度はわずかに前年度を上回ったものの, 学習支援室は来室者数の落ち込みを回復できていない。

来室者の学年構成をみると, 開設から2年間は1, 2年生が利用の中心となっていた。しかし平成17年度以降をみると, 4年生の来室が増加するなど学年間で来室者数の差は縮小した。

来室者の学科をみると応用化学科<sup>(1)</sup>の学生が多いことが分かる。これは,

化学の演習科目との連携が効果を挙げていること、応用化学科の学生に教職課程登録者が多いことの2点によるものと考えられる。

表1 学習支援室来室者数の推移（平成16-19年度, 単位：人）

年度（平成）	16	17	18	19
合 計	527	575	325	327
学 前 期	318	375	201	218
期 後 期	209	200	124	109
機 械 工 学 科	101	71	43	21
応 用 化 学 科*1	195	191	78	104
学 電 子 工 学 科	28	95	40	35
情 報 工 学 科*2	81	104	107	97
科 情 報 社 会 学 科	30	53	30	34
心 理 学 科	22	44	16	21
不 明 他	70	17	11	15
1 年	133	181	108	86
学 2 年	161	170	55	92
3 年	74	153	67	40
年 4 年	65	47	58	90
不 明 他	94	24	37	19

\*1 応用化学科は生命環境化学科を含む

\*2 情報工学科は情報システム学科を含む

## 1-2. 目的別の来室者数の推移

表2は来室者を目的別に集計したものである。これをみると、平成18、19年度は「教職」「化学」「資格<sup>(2)</sup>」「英語」が来室目的の中心だったことが分かる。このうち教職や資格は基礎というよりもむしろ専門課程に含まれるものである。化学についても、その大半は応用化学科（もしくは生命環境化学科）の学生であることから考えると、所属学科での学習内容につい

表2 学習支援室来室者数の来室目的（平成16-19年度, 単位：人）

年度（平成）	16	17	18	19	18・19合計
英語・語学	61	68	52	18	70
物理	91	38	13	16	29
化学	44	69	49	51	100
数学	22	32	18	19	37
情報社会	—	20	19	8	27
資格	15	11	47	10	57
プログラミング	3	16	0	9	9
教職	186	186	58	77	135
電子	—	17	12	2	14
情報社会	—	—	4	1	5
心理	—	—	2	1	3
履修	69	42	18	39	57
学習・自習	10	43	12	26	38
生活	1	9	12	39	51
進路	18	16	7	11	18
その他・不明	7	8	2	0	2

て勉強するために来室しているといえるだろう。これらを総合すると、来室者に対する学習支援は基礎的領域についてよりもむしろ専門領域についてのほうが大きかったということになる。

加えて、「生活」や「進路」といった、本来学習支援室が目的としていた「学習」よりも、学生生活への適応全般にわたる領域についての相談が増加している点も、この2年間の傾向と言えるだろう。学生生活や適応への支援がこれまで以上に必要とされていると見ることができよう。

専門領域についての学習支援や生活・適応支援の補強の重要性は、開設2年目の総括にも指摘しており（秦・高橋，2005），平成18年度からは情報社会学科が学習支援室活動にするなど部分的には実現している。しかし、

工学部については一部学科の専任教員の個別の参加はあったものの、学科としての参加は実現していない。学生のニーズに応じた学習支援室の変革が求められているといえるだろう。

## 2. 学習支援室のイメージに関するアンケートの実施

平成18年度第1回学習支援室運営委員会において、利用を促進する上で学習支援室がどのように学生に認知されているか、開室時間や設置教科などの運用体制について学生からどのように評価されているかを把握する必要があるとの見解が示された。これを受けて、運営委員会は平成19年1月に在学学生を対象として学習支援室の全般的なイメージに関するアンケートを実施した。

### 2-1. アンケートの実施概要

アンケートは平成19年1月に、学習支援室構成員の担当する必修科目の一部で配布・回収するという形式で実施された。アンケートを実施するクラスの選定にあたっては、全学科・全学年をカバーすることを考慮した。

回答者数は142人である。その学科・学年の内訳は表3のとおりである。

表3 アンケート回答者の学年・学科構成（人）

学年	機械	応化	電子	情工	情社	心理	不明	計
1	21	3	8	7	9	5	0	53
2	21	31	4	3	2	0	0	61
3	0	0	0	5	0	0	0	5
4	0	17	1	0	0	0	0	18
不明	0	0	0	1	0	0	4	5
計	42	51	13	16	11	5	4	142

### 2-2. 回答者の利用経験および評価

学習支援室を利用したことがあると回答した者（以下、利用経験者）は、142人中25人だった。表4は、その利用回数をまとめたものである。利用経

験者25人中18人が支援室を複数回利用していることがわかる。一度利用し、役に立つとの印象を得た者はその後も度々利用するようとなるのである。

表4 学習支援室の利用回数（人）

利用回数	機械	応化	電子	情工	情社	心理	不明	計
1回	3	3	0	1	0	0	0	7
2～5回	5	10	0	0	0	0	0	15
6～10回	0	0	0	1	0	0	0	1
10回以上	0	1	0	0	0	0	1	2
計	8	14	0	2	0	0	1	25

利用経験者に支援室がどのていど役に立ったか尋ねたところ、ほとんどの者が役に立ったと回答した（表5）。

表5 利用経験者による学習支援室の評価（人）

	機械	応化	電子	情工	情社	心理	不明	計
役に立たなかった	2	1	0	0	0	0	0	3
少し役立った	5	7	0	0	0	0	0	12
大いに役立った	1	6	0	2	0	0	1	10
計	8	14	0	2	0	0	1	25

### 2-3. 学習支援室の認知

学習支援室の存在はよく知られている。「学習支援室を知っていますか？」という問いに対して、142人中123人（87%）が知っていると回答した。また、場所に関しても112人（79%）が知っていた。認知度はとくに応用化学科において高く、他学科における場所の認知度が60%～86%であったのに対し、応用化学科では94%（48人/51人中）であった。

しかし、学習支援室を利用したことのない学生にその理由を自由回答で尋ねると、数値とは異なる像が立ち現れる。得られた46人の自由回答のう

ち、11人(24%)の学生が知らないこと・よくわからないことを理由に挙げている。たとえ存在を知っていても、「何を教えてくれるのか」「いつ行ったらよいのか」「どんな事を聞けば良いか」がわからないため、利用できなかったと回答している。

後述するように、学習支援室の雰囲気や開室時間などについて問題を感じる学生は少なくない。学習支援室の存在は学生の間にも広く知れ渡っているものの、「利用したい施設」としては必ずしも浸透してはいないことが推察される。

学習支援室は入りにくい 「学習支援室は入りやすいですか？」という問いに対し、51人(36%)が「入りにくい」と回答した(他は、「ふつう」78人、「入りやすい」8人、無回答8人)。支援室はあまり入りやすい場所ではないようだ。

なぜ入りにくいのかを尋ねたところ、15件の自由回答が得られた。そのうち、「中がまる見え」「食堂の横にあり、目立つ」など、目立つ場所にあることを挙げているものが4件、「入りにくいオーラ」「フンイキが少し悪いです。なんかコワイですね」など、雰囲気の問題を挙げたものが3件あった。利用したことのない者に理由を尋ねた設問でも、雰囲気の問題を挙げたものが全46件中9件あり、利用を阻む要因となっている。

これらの結果から、入りにくい要因として立地(食事をする場所に隣接し、目立つ)やレイアウトの問題と、学生にとって気軽に入りにくい雰囲気の問題の2つがあることがわかる。

開室時間の評価 学習支援室の開室時間について、41人(29%)が「短い」と回答している。「ちょうど良い」と回答しているものが90人(63%)と多数を占めてはいるものの、時間に関する不満が小さくないことがわかる。利用したことがない理由を尋ねたところ、「時間帯が合わない」「聞きたい時間に開いていない」など4件(9%)で時間の問題が取り上げられていた。希望開室時間を複数回答で学生に尋ねた結果(回答者数28人)によれば、午前中(9人)、午後(10人)、夕方(16時以降、22人)と夕方の時間を希望する者が多かった。

## 2-4. 内容・スタッフに関する要望

内容に関する要望（総数17件）では、人間社会学部のスタッフの充実（3件）のほか、大学での学習についていくための支援を求めるものが3件あった。具体的には、「大学で習う以前の、少し基本的なこと」「レポートについて」「テストの答えを教えてくれる」などである。

## 3. この2年間の学習支援室の取り組み

こうした状況を踏まえて、学習支援室がこの2年間にどのような取り組みを行ってきたかを概観する。

### 3-1. 相互連絡体制の整備

平成18年4月に新しい運営委員と構成員で学習支援室活動を始めるにあたりまず行ったのがメンバー専用のメーリングリストの作成である。支援室の開室や閉室等のスケジュールに関する連絡や会議の開催案内はもとより、各員が学習支援室に携わる中で気がついたことを書き込み、全員で有用な情報を迅速に共有することが目的であった。そして、この2点に関する限り、メーリングリストは有効に機能した。

### 3-2. 学生への広報の改善

学習支援室は発足以来毎年4月の入学ガイダンスと9月の後期ガイダンス時に利用を呼びかける配布チラシもしくは広報誌の「学習支援室ニューズレター」を配ってきたが、これらに学生が支援室を利用するにあたりまず必要となるであろう情報を見やすく盛り込んだ。場所に関しては、見やすい簡略な地図で示すことにした。学習支援室に詰める担当者は前期と後期で多少の異動があるので、その都度最新のものを載せた。また、学習支援室の利用の仕方を具体的に箇条書きで示した。これらは学習支援室の認知度を高めるのにプラスとなっている。

### 3-3. 開室時間の変更

平成18年度は構成員の人員不足のためにそれまでの開室時間を維持することができず、昼休みをはさむ11:30から13:30までの2時間だけしか開室することができなかった。これもまた、利用者減の要因となったものと考え

えられる。

アンケートでも開室時間が短いという回答が少なくなく、とくに夕方以降の開室のニーズがあることが明らかとなった。平成19年度は12:15から13:10までの昼の開室に加え、夕方(16:20から17:20まで)にも開室することとした。しかし、夕方の時間帯の利用者は期待したほどいなかった。

### 3-4. 「入りやすさ」の向上

アンケート結果の第2は、学習支援室が学生にとって入りにくい存在であるということである。

これに対応するために、平成19年度より出入口を1箇所追加し、建物外から直接入室することができるようにし、利用者が食堂へと行き交う他の学生から直接見えないようにした。また掲示などを通じて学習支援室の開室状況をさらにアピールすることとした。

## 4. 今後の学習支援室活動に向けて

上記のように学習支援室はこの2年間に利用に関する様々なデータや利用者アンケートに基づき、いくつかの改善を試みた。中には成功したものもあるが、残念ながら、総体としては利用者の増加という結果にはならなかった。

これに基づき、学習支援室の今後を考える上で検討すべき問題点を以下にいくつか指摘する。

### 4-1. 学生のニーズ・特性に対応した学習支援体制の強化

講義や授業を聞いていて分からないことがあれば、学習支援室に質問に来るとするのは支援室開設当初の大きな目的のひとつであった。しかし、学習内容の質問のために学習支援室を訪れる者は上述のように減少してきている。奇しくもこれと軌を一にするのが、年を追うごとに顕著になる入学学生の基礎学力に関する格差の拡大である。筆者の経験でも、開設2年目くらいまでは学習内容に関して質問に来た学生への対応は単発的なもので済み、学生の疑問はほぼその場で解決された。しかし、ここ数年学習内容に関して質問に来た学生の話の聞いていると、基本的な学習内容が多々欠けているためにその対応はとても単発的なものでは済まなくなってきた



いる。疑問を解決するには半年から1年という長い時間を要するだろうと感じるケースもしばしばである。おそらく学生のほうも無意識のうちにそれを感じ、学生支援室を利用する気にならないのではないだろうか。

「分からないことがあれば質問に来なさい」と受動的に待っているのでは、学生間に存在する潜在的なニーズに応えることはできない。大学教育以前の内容をも含めて講座開設し、学生に利用を呼びかける形で学習支援室を利用するなど、より能動的な活動が求められているのではないか。

こうした、より積極的な活動を維持するためには、さまざまな面での補強が求められる。第1に、支援室専任のスタッフの常駐が必要である。現状の、一部教員が時間を分担する形で支援室を開室する形態では、学習支援室での活動に必要なリソースを確保することができず、また必要な開室時間を確保することも難しい。第2に、学習活動を行うのに十分なスペースや静寂性を確保できるような場所も必要である。最後に、既存のカリキュラムとの整合性など、教務委員会との一層の連携も必要となってくるだろう。

#### 4-2. 学生支援体制の確立

そうした学習支援体制の強化に加え、最近必要性を増している学生生活全般への支援という面の充実を図ることが学生のニーズに、より応えることになるかもしれない。この2年間を見ると学生生活関連の来室者が全体の6分の1近くを占めることからわかるように、学習支援室は学生生活への適応に問題を抱える学生にとっての相談窓口のひとつとなっている。

こうした学生生活の支援を充実させるためには、カウンセリング・ルームや学生課、学生委員会とのより緊密な連携が必要となるであろう。奨学金やボランティアの紹介など学生生活に関する情報の共有、事例に関する情報交換、学生相談技術向上のための研修の開催など、各機関との協力体制を構築し、学生支援のための体制を確立することが、現在の学習支援室は求められているのではないだろうか。

## References

---

- 斎藤昭二 2007 進化する学習支援室. 学習支援室ニューズレター, **3**, 1。  
秦明夫・高橋優 2005 学習支援室の2年間を振り返る。 *Contexture*, **23**, 87-101。

## 注

- (1) 平成19年度より生命環境化学科に改組
  - (2) 情報系の資格取得に関する相談
-

## 学習支援室に関するアンケート

平成19年1月に実施された、「学習支援室に関するアンケート」の質問内容および選択肢は以下のとおり。

- (1) 学習支援室を知っていますか？  
1：知っている      2：知らない
- (2) 学習支援室の場所を知っていますか？  
1：知っている      2：知らない
- (3) 今までに学習支援室を利用したことがありますか？  
1：ある      2：ない
- (4) 問3で「ある」と答えた方へ。何回くらい利用しましたか？  
1：1回      2：2～5回      3：6～10回      4：10回以上
- (5) 問3で「ある」と答えた方へ、学習支援室はどの程度役に立ちましたか？  
1：役に立たなかった      2：少し役立った      3：大いに役立った
- (6) 問3で「ない」と答えた方へ。何か理由があったら、書いてください。  
(自由回答)
- (7) 学習支援室は入りやすいですか？  
1：入りにくい      2：ふつう      3：入りやすい
- (8) 問7で「入りにくい」と答えた方へ。理由があったら書いてください。  
(自由回答)
- (9) (学習支援室の時間表を示した上で) 上の表に示された学習支援室の

開室時間についてどう思いますか？

1：短い      2：ちょうど良い      3：長い

(10) 問9で「短い」と答えた方へ。開室してほしい時間帯があったら、書いてください。(自由回答)

(11) 上の表にある科目や項目以外に、学習支援室で質問できるといいなと思うものがあったら書いてください。(自由回答)

(12) 学習支援室に対する要望があったら、書いてください。(自由回答)

(13) 学部

1：機械      2：応化      3：電子      4：情工      5：情社      6：心理

(14) 学年

1：1年      2：2年      3：3年      4：4年      5：5年以上